

第6回佐賀市障がい者プラン等策定委員会

日時：令和6年2月16日（金）19：00～

場所：本庁4階大会議室

1 開会

（省略）

2 部長あいさつ

（省略）

3 議事

（1）佐賀市障がい者プラン（案）について【資料1-1】【資料1-2】

委員：54ページの意思疎通・意思決定支援の推進の、多様なコミュニケーション手段の部分について、ALS（筋萎縮性側索硬化症）等の重度の難病患者の方が、ICTを活用したコミュニケーションにより意思疎通をしている現状があるので、ICTの表記を追加いただければ。

事務局：検討する。

委員：議論の余地があると思うが、啓発活動をすること自体が、そもそも「フラット」ではないのでは、という考えもある。「フラット」を実現するということは難しいとは思いますが、理念としてはこれで良いかと。

委員：「フラット」については、定義があって、佐賀市としての考え方を示した方が良いと思うので、これでいいのでは。珍しいが、いい基本理念だと思う。

委員：理念の「フラット」が、カタカナとひらがなの併記になっているのには意図があるのか。

委員：意味として、イメージとしては、カタカナは「平ら」という意味のフラット、ひらがなは「ふらっと」来る、のような自然なつながりの意味合いがある。

委員：先入観の無い対等な関わりということで、なるほどと思ったが、先入観を「なくす」というのは、少し無理があるかと思った。

委員：色々な解釈の仕方がある理念かと思う。

委員：佐賀市内の事業所の平均工賃月額をA型B型でそれぞれ記載いただいているが、A型B型で労働時間も異なると思うので、時給で記載した方が分かりやすいのでは。

事務局：A型B型で労働時間は確かに異なるかと思う。

A型は会社と雇用計画を結んでいるので就労時間もある程度長く佐賀県の最低賃金を踏まえた賃金となる。対してB型は就労時間も短く、時給という考えではなく、工賃になり、よって最低賃金といった考えもないため、時給として記載することは難しいと思う。

委員：防災防犯対策について、能登地震があり、佐賀市からも災害協力隊として、施設からの応援協力として行った人からは大変な状況だったと聞いた。今回の計画に基づき、訓練、シミュレーションも必要ではないかと思う。市単位や地区単位での避難訓練も次年度にでも実施した方がよいと思う。

委員：プランの内容自体は充分良いと思う。次に、これを出してどう進めるかが大事かと。周知の方法として、地域住民の交流等を進めていくとすれば、一番大事なのは自治会に浸透させるかが大切だと思う。自治会長等の意識や理解がなければ、地域での浸透が図れないと思うので、地域に対してどう浸透させるのかを検討いただければ。

(2) 第7期佐賀市障害福祉計画及び第3期佐賀市障害児福祉計画(案)について【資料2-1】【資料2-2】

委員：重度障害者包括支援について、他県でも0のところがほとんど。受け皿がないのか、報酬が少ないのかなど、なぜなのだろうと疑問に思う。事業として採算が取れない、また、人材が確保できない等の課題があるのだろうと思うが。

事務局：重度障害者包括支援について、この事業を提供している事業所がない状態。この事業は夜間にも行う事業であり、人材確保のハードルも高いと思う。九州では福岡県に1カ所だけ提供事業所がある。県にも意見として伝えていきたいと思う。

委員：必要性はあるが、実施するためのハードルが高い。人もおらず事業所もないため、どこの計画でも0になっている。

委員：今回委員として関わって視野が広がり、自分自身も、現場に行ってみることで色々知れることがあった。社会基盤として経済的な意見も必要だと思うため、福祉と経済が関わり、いろいろな意見が出ることで、基本理念につながるのではと思う。

委員：一般の方から障がいのある方に対する言葉による虐待、これに非常に気を付けなくければいけないと思う。障がいのある人もない人も対等な同じ立場なのだという事について、職場や地域での理解を深めることも課題かと思う。

委員：アウトリーチについて話が出たが、まだ知らないニーズ、掘り起こされていないニーズを拾い上げるのが役割と思っているので、今後も皆さんと連携して取り組んでいければと考えている。

- 委員：ビジネス目的だけで障害児通所支援やグループホームを始めたりしていることによる弊害があると聞く。そういった事業所に対し、指導が出来るような機能が充実すればいいと思っている。
- 委員：この計画がどの程度利用されているか、活用されているかをもう少し知りたいと思った。市民の関心度等も見えてくるような場が必要ではないかと思う。
- 委員：事業所の研修も必要ではと思う。事業所があっても支援の中身がないというのはやはり課題としてあるかと思う。受け入れ体制・キャパシティの都合により利用したくてもできない場合もあり、誰でも使えるというようになればいいと思う。
- 委員：もっと規制緩和をしていろいろな事業者に参加してもらえるようにした方がよいと思う。現状、利用者のニーズに応えるのに体制上の限界を感じている。
- 委員：制度ありきではなく、必要な支援を必要な人に届けたいという思いで取り組んでいる。親亡き後、高齢化の課題もあり、取り組みを連携してできればと考えている。
- 委員：相談支援体制については連携という事がキーワードになるが、地域を巻き込んだ連携が大きな課題だと感じている。おたっしや本舗もあり、地域の民生委員等と連携していく事も重要だが、時間もかかるかと考えている。能登半島の地震を見て、誰がどう安否確認したり、避難支援するかなど、非常に考えさせられるものがあった。自立支援協議会や相談支援でも取り組むべき大きな課題であると感じた。
- 委員：計画の策定期間だけ集まるのではなく、常設の委員会等あれば良いのではないかと思った。課題は日々発生しているので、話し合える場があって、それを次の改定時に反映するとか。また、本当に医療・福祉業界は人材不足である。
- 委員：人材を考えた時に、福祉の魅力発信が必要となる。魅力を学生などに伝えることが、福祉の分野にもつながることがあると思う。
- 委員：今回の委員会で印象に残ったのは、基本理念の「フラットな関わり ふうらつとにつながる」に出来て良かったと思う。今まで硬い言葉が当たり前だったので、「フラット」に関する注釈もつけたことにより、市民にも分かりやすくなったと思う。
また、評価の時期が定まっていることも良かった。
社会全体を見ても人材不足で、社会の転換期にある。障がいのある人も社会の担い手であり、農業の分野でも障がいのある人の力が期待されている。ただ、それは担い手不足だからという話ではなく、食料自給率の維持や長期的な食糧確保のために、障がいのある人が担うことが国のためにも重要。また、重症心身障がいの人でアバターの世界で活躍している人もいるし、発達障がいの人が活躍しているということを知ると、社会が変わっていくことでプラスになっていることもある。3年後、6年後にプランをまた再考する時にも、社会動向にあったプランとなればと思う。

委員：委員会による審議は以上となる。委員の皆様それぞれの立場から多様な意見を頂いたと思う。
次の3年後、6年後に向けてがんばっていきたい。

4 その他

(省略)

5 閉会

(省略)